

アクセスマップ



日本遺産 かかあ天下 —ぐんまの絹物語—

- ① 富沢家住宅
- ② 中之条町六合赤岩 伝統的建造物群保存地区
- ③ 永井流義遺伝習所実習棟
- ④ 永井と像
- ⑤ 旧小幡組系レンガ造り倉庫
- ⑥ 甘楽町の養蚕・製糸・織物資料
- ⑦ 甘楽社小幡組由来碑
- ⑧ 白蔵神社
- ⑨ 旧模範工場桐生製糸合資会社事務所棟
- ⑩ 桐生市桐生新町 伝統的建造物群保存地区
- ⑪ 後継織物
- ⑫ 織物参考館「燕」
- ⑬ 桐生織物会館旧館

世界遺産 富岡製糸場と絹産業遺産群

- ① 富岡製糸場(富岡市)
- ② 田島弥平旧宅(伊勢崎市)
- ③ 高井山跡(藤岡市)
- ④ 荒船風穴(下仁田町)

群馬県立世界遺産センター「セカイ」

問い合わせ先

- 桐生市** 桐生市役所(産業経済部日本遺産活用室) TEL 0277-32-3913
<https://www.city.kiryu.lg.jp/kankou/index.html> (桐生市ホームページ 観光・文化)
- 甘楽町** 甘楽町教育委員会(教育課) TEL 0274-64-8324
<https://www.town.kanra.lg.jp/kanko/index.html> (甘楽町ホームページ 観光情報)
- 中之条町** 中之条地区:中之条町教育委員会(生涯学習課) TEL 0279-76-3111
 六合地区:中之条町六合支所 TEL 0279-95-3013
<https://www.nakanajo-kanko.jp/> (中之条町観光協会ホームページ)
- 片品村** 片品村役場(むらづくり観光課) TEL 0278-58-2112
<http://www.vill.katashina.gunma.jp/kankou/index.html> (片品村観光情報サイト)

日本遺産
「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」
公式ホームページ



周辺グルメとアクティブを
楽しむ旅ガイドコラム
「きぬ旅」



パンフレットダウンロード
閲覧リンク



発行者 群馬県立世界遺産センター「セカイ」(令和7年3月発行)
 TEL 0274-67-7821 FAX 0274-67-7822
 「セカイ」公式ホームページ <https://worldheritage.pref.gunma.jp/whc/>



日本遺産

かかあ天下 —ぐんまの絹物語—



明治の文豪、徳富蘆花が随筆で「**機**の音、製糸の煙、桑の海」と表現した群馬県。

古くから絹産業の盛んな上州(群馬県)では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます活躍しました。夫たちは、「おれのかかあは天下—」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になりました。

「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」は、家族と地域を支えてきた女性「かかあ」たちの姿を、ゆかりの地を訪れ、地元の方々の話を聞き、実際に繭から生糸をひいたり、絹布を織ったりして、体感していく物語なのです。

日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。

蚕を飼育し繭を作る 養蚕業

繭から糸にする 製糸業

絹は、蚕という虫が作る繭から作られます。
蚕は繊細な虫で、「お蚕さま」と呼ばれ、
子どものように、家の中で大切に
育てられていました。
蚕の世話は、家の中を切り盛りする女たちの
重要な仕事でした。



富沢家住宅(中之条町) 国重要文化財

二階に専用蚕室を持つ国内最古級の養蚕農家
周辺では今でも桑畑を見ることができます。

中之条町六合赤岩伝統的建造物群保存地区(中之条町)
国重要伝統的建造物群保存地区



養蚕で栄えた山村集落
地元の方にガイドしてもらおうのがおすすめです。

永井流養蚕伝習所実習棟(片品村) 片品村重要文化財

冷涼地での養蚕法を確立した夫の遺志を継いだ
妻といが建てた養蚕の教育施設



永井いとと像(片品村)

いとさんは養蚕の指導
者として活躍しました。

女たちは繭から糸を繰り出す技術
(座繰り)にも磨きを掛けていきました。
甘楽町に残る碑には、
「村で養蚕をしていない家はなく、
製糸をしていない女はいない」とあり、
まさに上州の女たち(かかあ)の
活躍が記されています。



旧小幡組製糸レンガ造り倉庫(甘楽町)
甘楽町重要文化財

繭や生糸を保管するための倉庫
今は歴史民俗資料館になっています。



甘楽町の養蚕・製糸・織物資料(甘楽町)

大正初期には約7割の世帯が養蚕農家だった
甘楽町で使用された道具や資料
道の駅甘楽では座繰り体験ができます。(実施日是要確認)

甘楽小幡組由来碑(甘楽町)

組合製糸甘楽小幡組の
歴史と発展を伝える碑



糸を染め布に織り上げる 織物業

桐生は江戸時代から「西の西陣、東の桐生」と言われるように
高級な絹織物の産地として知られていました。
明治に入ると桐生の町並みには、ノコギリ型の屋根が特徴的な
織物工場が数多くみられるようになりました。



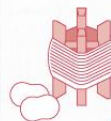
白瀧神社(桐生市)

京都から織物技術を伝えたという「白瀧姫」をまつる神社
桐生織物の発祥の地として知られています。



旧模範工場桐生燃糸合資会社事務所棟(桐生市)
桐生市重要文化財

糸に燃りかける燃糸工場の事務所棟
日本最大の燃糸工場で、たくさんの女性が働いていました。



桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区(桐生市)
国重要伝統的建造物群保存地区

織物業の中心地
江戸時代後期から昭和初期にかけて建てられた絹織物関連の主屋などが建ち並んでいます。



後藤織物(桐生市) 国登録有形文化財

帯地などの織物生産を行っていた工場
桐生織物の発展に大きな貢献を果たしました。

織物参考館“紫”(桐生市) 国登録有形文化財

旧ノコギリ屋根工場などを利用した体験型織物資料館
染色や機織りの体験ができます。



桐生織物会館旧館(桐生市) 国登録有形文化財

桐生織物同業組合の事務所
桐生織に関する様々な資料を展示しており、
桐生織製品を購入することもできます。

